



連 衛 保 環 境 富 山 県

第20号

発行日 令和元年10月1日
 発行者 富山県環境保健衛生連合会 会長 五十嵐 務

題字 五十嵐 務

第62回 富山県環境保健衛生連合会定期総会

第六十二回定期総会が 開催される

第六十二回定期総会は、令和元年五月二十二日（水）午後一時半から富山県市町村会館で開催された。浅生副会長の開会宣言のあと、五十嵐会長からの挨拶があり、次いで富山県知事（代読・市村仁志厚生部長）から祝辞があった。

来賓紹介のあと、県環境政策課長・矢野康彦氏より「富山湾の環境美化について」と題して講話があった。（別掲）

定足数の確認後議事に入り、平成三十年年度の事業報告・収支決算報告について、続いて令和元年度の事業計画（案）・収支予算（案）について原案通り承認された。

次に、第六十四回富山県環境保健衛生大会を砺波市で開催することが決定された。また、令和元年度の役員が承認された後、放生副会長から閉会の挨拶があり、全て終了した。



第六十二回定期総会

五十嵐会長挨拶

最近の我々を取り巻く環境は、「食品ロス」削減の法制化の動きや、コンビニで期限切れが迫っている弁当を実質的な値下げするポイント還元の動きが広がっており、大変喜ばしいことと思っております。

「食品ロス」については、連合会が重点事業として取り組み始めて二～三年たち、「3015運動」や「サルベージパーティー」をひろく広めていくこととしているが、国がようやく追いついてきている感じがします。

連合会では、従来のスーパーに加え、今年からコンビニでのレジ袋を廃止しようと「コンビニでのマイバッグ運動」を重点目標としており、富山県が全国の先端を走っていることを皆さんと一緒に関り上げていきたい。

今年の秋には、美しい湾クラブの国際総会が富山で開催されます。

海岸をきれいにする運動を更に徹底し、世界から訪れる人たちが、富山湾の海岸にゴミひとつないきれいな海岸を実感して帰っていただきたいと思っています。また、日台観光サミットや全国知事会議などの大きな会議が予定されており、富山を訪れた人たちが「富山の町はきれいなんだな」「きれいな町に来てよかったな」と思ってもらえる、そんな所を我々の手で作っていきたいと思っております、皆さんのご協力をお願いいたします。

今年、健康寿命日本一を目指すため、減塩、野菜の摂取量に配慮した「健食運動」を始めていこうと思っております、各種団体のご協力を頂きながら健康活動にしっかり取り組んでいきたい。また、昨年からの三世代で環境の問題、保健衛生の問題に取り組む事業を始めたが、その成果の発表を県大会の場で設けたいと思っております。

多くの課題が山積しているが、皆様方のご協力を頂き大きな県民運動に関り上げていきたいと思っております、何卒よろしくお願いたします。

「富山湾の環境美化について」

富山県生活環境文化部環境政策課長 矢野 康彦氏



今年十月、富山湾が「世界で最も美しい湾クラブ」加盟五周年を迎える節目に、日本初となる湾クラブ世界総会が富山県で開催されます。そこで、本県が進めている海岸漂着物対策の取組みなどをご紹介します。

【富山湾について】

富山湾については、美しい自然景観、貴重な自然環境が維持されており、海水浴場や海浜公園など多くの人が集い憩う場として整備されているところで、また、水質の環境基準の達成率は100%を維持しており、良好な水質となっています。

このような富山湾の魅力や環境保全活動に向けた取組みなどが高く評価され、平成二十六年十月に「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が承認され、さらに今年十月、ここ富山でその世界総会が開かれることになりました。

〈世界で最も美しい湾クラブ〉世界総会 in 富山

開催期間 令和元年十月十六日(水)～二十日(日)
場所 富山国際会議場、ANAクラウンプラザホテル 富山など

主催 富山県、「世界で最も美しい湾クラブ」世界

協力 総会2019年富山総会開催実行委員会
美しい富山湾クラブ

【海岸漂着物の状況】

世界的に問題となっている海岸漂着物は、県内の海岸でも確認されています。環境省の調査結果では、県内の海岸漂着物の約八割が県内から流出したものとされています。

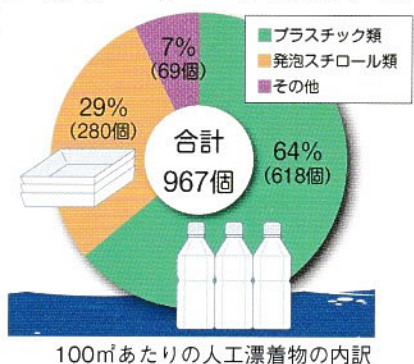


海岸漂着物の状況 (射水市六渡寺海岸)

しかし、県民がこのこと

をどれくらい認知しているかについてアンケート調査を実施したところ、海岸漂着物の由来を正しく認識している方は、三割程度と低いのが現状です。

また、海岸漂着物のうち人工物の九割以上がプラスチック類と発泡スチロール類となっています。これらが近年問題化している「マイクロプラスチック」の発生原因となっております。ヒトを含めた生態系への影響が懸念されています。



100㎡あたりの人工漂着物の内訳

さらに、平成二十九年度に、県内の海岸でマイクロプラスチックを採取し、その素材を調べたところ、ポリエチレン系(レジ袋など)やポリスチレン系(食品トレイなど)など、身の回りのごみに由来するマイクロプラスチックが確認されました。これらのことから、ごみの発生抑制や県民への周知が重要な課題であり、県では次の取組みを進めているところです。

【発生抑制の取組み】

①上流域と下流域の連携

海岸漂着物の量が多い小矢部川流域をモデルとした、住民、事業者、行政等による協働、県内全域での清掃活動の展開

②環境教育及び啓発

親子等を対象とした、海岸清掃体験バスツアーの開催や小学生向け副読本の配布

③海岸漂着物発生の原因抑制

レジ袋の無料配布廃止の取組み、「とやまエコ・ストア制度」(食品トレイやペットボトルなどの資源回収などを行う小売店の登録制度)の創設、農協などでの農業用プラごみの回収活動の推進

特に、自主的な清掃活動を促進するため、スマホアプリ「ピリカ」の活用を呼びかけています。「ピリカ」は、だれでも気軽に世界中にごみ拾いの様子を発信できるSNSサービスで、世界八十五カ国で活用されています。皆様にはこのアプリを通じて、日頃の清掃活動の発信をお願いします。



ピリカ

【湾クラブ世界総会に向けた取組み】

湾クラブ世界総会に向けて機運を高めるため、「みんなできれいにせんまいけ大作戦」として、六、九月にかけて上流域と下流域の住民が一体となった県民総参加の清掃活動を実施しています。



海岸清掃

さらに、湾クラブ世界総会の参加者をきれいな海岸でお迎えするため、世界総会の開催前に、視察先会場などで海岸清掃を開催します。皆様ぜひご参加ください。

開催日 十月十二日(土) 朝日町ヒスイ海岸

十三日(日) 射水市海王丸パーク周辺

十四日(月祝) 高岡市松太枝浜・雨晴海岸

【まとめ】

海岸漂着物問題は世界的な課題ですが、富山県では、県内由来のごみがほとんどであることから、ごみのポイ捨て防止や清掃活動など、自分たちの努力で、綺麗な海岸を取り戻すことができます。

多くの方に富山県の漂着物の現状を知っていただき、一人ひとりの意識、行動を見直すことが重要です。引き続き皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

三世代環境衛生活動モデル事業 立山町「前沢十二区クリーン作戦」 活動報告

立山町環境保健衛生協会五百石支部前沢十一区では、例年行う「川きれいな運動」のほか、地域内の各種団体に協力をお願いし、前沢十一区クリーン作戦として、地域の草刈りとごみ拾いに取り組みました。

実施団体名

立山町環境保健衛生協会五百石支部前沢十一区

事業の目的・ねらい

地域の環境美化清掃の向上を目指すとともに、「祖父・父母・子供たち」の三世代の交流を図り、美しい環境を後々の世代に引き継ぐ。

事業の内容

- (1) 期日 令和元年五月二十六日(日)
- (2) 場所 立山町前沢十二区地内
- (3) 事業の内容

① 連携団体・参加者

寿会、女性の会、青年会、愛育会
祖父母20名、父母18名、小学生・幼児14名、
合計52名

② 事業の概要

地域内道路等の草刈りとごみ拾い

③ 参加者の感想

〈小学生〉通学路として歩いてきた道路に、こんなに多くのごみが捨てられていたのびっくりした。

〈大人〉車上からの投げ捨てが多いと思われるタバコの吸い殻がたくさんあった。日頃話す機会の少ない方も交流ができてよかった。

〈祖父母・役員〉みんな一生懸命に作業してくれて、うれしかった。年に何回か環境美



活動風景

化清掃があれば、交流がもっと深まるのではないかと深まるのではないかと。

(4) 事業の成果

- ・タバコの吸い殻など小さなごみも拾い、環境が良くなったとの意見数件あり。
- ・子どもたちが環境を考えるよいきっかけとなったとの意見数件あり。

(5) 事業の課題

・ごみの投捨てをどうしたら無くせるか、地域の住民のみならず、通過する他の地域の方の協力が必要不可欠であるとの意見複数あり。

快晴のもと、五十二名の参加者が集まり、環境美化意識の向上と地域住民の交流の面からも重要な行事となった。「自分たちの地域は自分たちできれいにする」の理念のもと、美しい環境を後世に引き継ぐため、次年度も引き続き企画したいと考えている。



収拾物処理

三世代環境衛生活動モデル事業 南砺市「親子わんぱく自然教室」 活動報告

南砺市環境保健協議会では、市内において小中学生を対象とした自然体験事業を長年にわたり展開されている親子わんぱく自然教室の取組みと連携し、三世代環境衛生活動モデル事業に取り組んだ。

実施団体名

親子わんぱく自然教室(代表・金子良成)

事業の目的・ねらい

身近なふるさとでの自然を楽しく学ぶことを通して、環境保全の重要性や自然に対する好奇心を養うとともに、子どもと保護者や講師などの大人が互いに参加することにより、異世代交流を図ることを主な目的とする。また、自然に触れ合う機会が減少している現代の子どもたちにとって、自然環境に触れ合うことは大変

貴重な体験であり、多くの学びや感情が芽生えることを期待し開催した。

事業の内容

- (1) 日時 平成三十一年三月二十四日(日) 九時～十六時
- (2) 場所 閑乗寺公園、八乙女山麓 他(井波地域)
- (3) 事業の内容

① 連携団体・参加者

親子わんぱく自然教室・南砺市教育委員会
小学生27名 園児4名 保護者21名 合計52名

② 事業の概要

八乙女山麓の自然観察と水生生物調査

講師の指導のもと、閑乗寺公園及び八乙女山麓を散策し、植物や水生生物の観察を行った。

③ 参加者の感想

・絶滅危惧種の生き物を見つけたことができて良かった(小4・男子)

・いろんな生き物が川で一生懸命生きているんだなと思った(小5・女子)

・つくし、ふきのとう、さくらを見つけたことができて春を実感することができた(保護者)

④ 事業の成果

子どもと保護者や講師などの大人が一緒になって自然体験教室に参加することで、異世代交流を促進することができた。また、ふるさとの豊かな生態系や山・川などの魅力を子どもたちに伝えることができ、豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくためのきっかけとすることができた。

⑤ 事業の課題
本事業をより多くの子どもたちやその保護者に知っていたくために、南砺市環境保健協議会がより効果的に広報活動を展開していく必要性を感じた。



食品ロス削減のための商習慣見直しフォーラム —富山県から全国に先駆けて—

日時 令和元年七月二日(火)
十五日 十五時～十七時
場所 高志会館 カルチャーホール
基調講演 牛久保 明邦氏
東京農業大学名誉教授・
(一社)日本有機資源協会会長



富山県では、平成二十八年に開催された「G7富山環境大臣会合」等を受け、平成二十九年に「富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議」を設置し、県をあげて食品ロス・食品廃棄物等の削減に向けた運動に取り組んでいる。県内でも七十四・三万トンの食品ロスが発生しており、その四割が食品関連事業者(製造・卸・小売り・外食等)から発生している。これらの食品ロスは、流通段階でのいわゆる「1/3ルール」と言われる商習慣が要因とされている。こうした商習慣は、個々の企業のみで解決は難しく、食品関連事業者、行政が互いに連携し、消費者の理解のもと、フードチェーン全体で解決していくことが重要である。そこで平成三十三年三月、県内の事業者、消費者、行政がそれぞれの役割を果たし、全国に先駆けて商習慣の見直しの取組み、食品ロス・食品廃棄物削減につなげていくことを宣言した。以上基調講演の後、パネリストが行われた。

パネリスト
谷田 隆司氏(日の出屋製菓産業 製造部長)
澤田 佳宏氏(北陸中央食品 代表取締役)
若林 徹 氏(富山県生協連合会 代表理事)
尾畑 納子氏(富山県消費者協会 会長)

みんなできれいにせんまいけ大作戦 —美しい富山湾に向けて—

今年度も「みんなできれいにせんまいけ大作戦」が全市町村において六月から九月に実施されています。今年度も県下で三万人を超える方々の参加があり、富山が本当にきれいな湾になっております。十月十六日(二十日)には、「世界で最も美しい湾クラブ世界総会」が富山県で開催され、富山湾の視察も実施されます。このよ

うな中、今年度の新たな重点事項として「美しい富山湾の環境保全」を掲げ、「みんなできれいにせんまいけ大作戦」や海岸清掃地域での清掃活動を積極的に推進しています。

昨年の大雨の後の海岸には、ペットボトル、空き缶、空き瓶、買ひ物袋や肥料袋、また、多数の流木やヨシや葦(あし)の枯れ枝等で埋め尽くされておりました。富山県の海岸の漂着ごみの八割が県内由来のものであるそうです。

ぜひ、河川の上流から下流まで、すべての人がごみの河川や海への流出を防ぐ取組みを一層推進し、次の世代に「美しい富山湾」を引き継ぐことを願うものです。(事務局)



7月6日 射水市六度寺での活動風景

令和元年度役員

【会長】	五十嵐 務	(富山地区富山市)
【副会長】	麦島 紀長	(富山地区富山市)
〃	林 信義	(高岡地区高岡市)
〃	浅生 修	(県東部地区A魚津市)
〃	廣明 忠信	(県東部地区B立山町)
〃	放生 寛治	(県西部地区A水見市)
〃	浦出 義一	(県西部地区B南砺市)
【専務理事】	浦出 義一	(副会長兼務)
【監事】	村上 公生	(富山地区富山市)
〃	大森 崇督	(県東部黒部市)
〃	南 昭仁	(県西部小矢部市)
【常任理事】	白江 祐一	(富山市)
〃	長澤 邦男	(富山市)
〃	山森 潔	(富山市)
〃	大島 学	(富山市)
〃	沼 満保	(富山市)
〃	竹森 節	(富山市)
〃	駒井 義次	(高岡市)

編集後記

ある日、たまたま見たテレビのワンシーン。鼻の穴に異物が詰まり衰弱したウミガメが捕獲された。係員が懸命にその異物を抜こうとするがウミガメが血みどろになりながら抵抗。ようやく取出したのはなんとプラスチックのストローであった。このストローがウミガメを長い間苦しめていたのだ。他にウミガメがクラゲと間違つてレジ袋を飲み込み、死亡する事例が多く報告されていた。

このように大量のプラスチックゴミが海流に乗って広がり世界の海を汚染している。やがてこのプラスチックゴミが海中で採まれ、マイクロプラスチックとなり、プランクトンからクジラまで海の生態系を脅かす。そしていずれ食物連鎖に組み込まれる人類も多大な影響を受けることになる。まずはゴミを絶対に捨てないことだ。

今年十月「世界で最も美しい湾クラブ」世界総会が富山で開催されるのを機により一層環境美化に取り組みたい。(広嶋記)

【常任理事】	蔵 伊佐夫	(高岡市)
〃	杉本 勝美	(高岡市)
〃	村田 光朗	(黒部市)
〃	尾田 喜則	(入善町)
〃	新 澁川 悦郎	(朝日町)
〃	長勢 静雄	(魚津市)
〃	斎藤 久	(滑川市)
〃	酒井 重人	(上市町)
〃	広嶋 寿雄	(立山町)
〃	萩原 勉	(舟橋村)
〃	松丘 弘光	(射水市)
〃	串田 伸男	(射水市)
〃	網田 勝	(水見市)
〃	新 井上五三男	(砺波市)
〃	新 大塚 千代	(南砺市)
〃	得永 榮治	(小矢部市)